

しろくま通信



節分は、少し前まで「鬼は外、福は内」と言って家の中で豆をまいていました。なぜ豆なのかというと、「魔(ま)を滅(めつ)する」というところから来ているといわれています。家中に散乱した豆を見て、母親から掃除が大変と言われたものです。寺院でも有名人を呼んで豆まきを行ったりしますが、鬼についての考え方の違いで、「鬼は外、福は内」と唱えない寺院もあります。

浅草の浅草寺(東京都台東区)では、観音様の前に鬼はいないという考えから「千秋万歳 福は内」と唱えます。不動明王を本尊とする成田山新勝寺(千葉県成田市)では、不動明王の前では鬼すら改心するというので「福は内」のみです。

では、「恐れ入谷の鬼子母神」で有名な仏立山真源寺(東京都台東区)は鬼を本尊とするために「鬼は外」とは言えず「福は内、悪魔外」と唱えます。この本尊は、インド神話のハーリーティという悪鬼に由来します。この女鬼は人の肉、特に子供の肉を好んで食べていました。おそらく、子供がかかる伝染病の化身だったのでしょう。しかし彼女自身には500人の子供がいて、どの子もとてもかわいがっていました。お釈迦様がハーリーティを改心させようと末の子を神通力で隠してしまいます。帰宅した彼女は子供が一人いないのに気づき、血眼になって探します。お釈迦様が、「500人もいるのだから一人くらいなくてもいいじゃないか」と話しますが、「何をおっしゃるのですか。親にとってどの子もかわいいのです。あなたは、親の気持ちがわからないのですか」と腹を立てます。するとお釈迦様は「それじゃハーリーティ、人間は数人の子供しか持てないよ。その子が亡くなったら、親はどんなに悲しむか分かるか」と諭しました。改心したハーリーティは、もう人は食わず、人を守る守護神となり、日本に伝わって子供、女性を守る鬼子母神となりました。ここでは七夕の前後三日間「入谷朝顔市」が開かれることで有名です。人間を食べなくなったハーリーティは、吉祥果を食すようになります。これはザクロのことであり、人間の味がすると伝えられていますが、日本で作られた俗説のようです。



10,000人いようと
子どもってカワイイわぁ!
だって、みんな
わが子なんですもんよ



つづきの3号が待てない方はホームページへ

<http://babayakkyoku.com/>

しろくま薬局ですぐに検索できます

QRコードでもホームページへ

